

長万部まちづくり推進会議

平成28年6月24日設置



概要

長万部町は、古くから道央と道南を結ぶ交通の要衝として重要な地域に位置しております。また町は、線路で東西に分断されておりJR駅舎を含め生活関連施設の老朽化が顕著に現れ、移動等円滑化促進(バリアフリー化)もされていない現状です。そして、北海道新幹線の駅舎の設置が決まり、現在、駅周辺地域の整備を中心にまちづくりを検討しているところであります。周辺整備にあたり、老朽化した施設や新しく整備する生活関連施設および経路を検討・整備していくうえで、バリアフリー化の基本構想が不可欠と考えております。

○移動等円滑化の現況

- ・古い施設や生活用道路には、凹凸があり移動しにくい
- ・古い町並みの歩道には、電柱等の障害物がある
- ・点字ブロックなどの整備が少ない

○移動等円滑化の課題

- ・施設内や生活用道路に凹凸があるため接続部などの段差解消
- ・歩道など幅員が狭いため、余裕のあるスペースの確保など

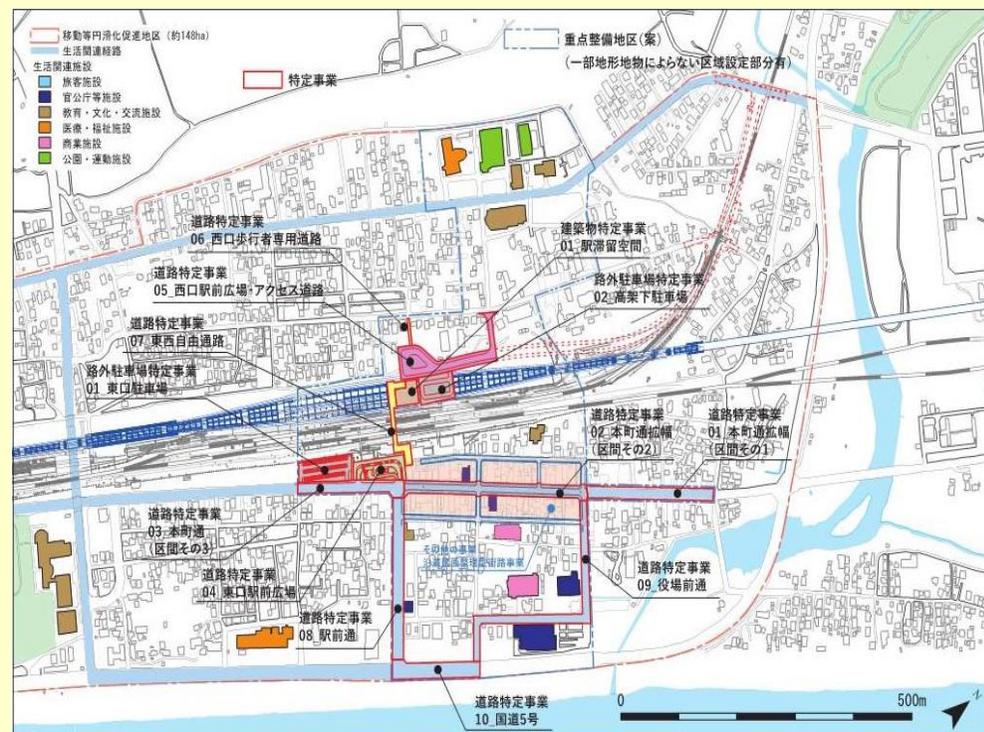
○調査の主な内容

- ・各種調査(特定事業の検討)
- ・基本構想案の作成
- ・協議会運営

○長万部まちづくり推進会議開催状況

- 令和6年1月10日 第1回協議会を開催
- ・特定事業案の説明、意見聴取

基本構想 重点整備地区(案)



長万部まちづくり推進会議 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

1. 移動等円滑化基本構想案作成に向けた調査等

令和3年の移動等円滑化促進方針策定時から整備地区の現状変化がないため、策定時に実施した住民アンケートや町歩き点検の成果を使用し検討した。また特定事業計画の整備事業は、最低限必要な整備項目を基本として、整備箇所によって整備項目の追加等を行った。

(参考: 移動等円滑化促進方針策定時の調査結果)

(1) 住民アンケートの実施

○町民約1,200名を無作為抽出して実施し、462名から回収

- ①まちづくりで重要なのは長万部町立病院を中心とした地域医療体制の十分な維持58%、高齢者・障がい者が安心して暮らせる地域社会33.9%、子育て世代が安心して暮らせる地域社会25.6%
- ②外出の際よく行く場所は小売店86.4%、銀行・郵便局66.3%、病院41.5%
- ③外出の際に利用する交通手段は自家用車81.7%、徒歩32.8%、JR20%、自転車17.7%

(2) まち歩き点検の実施

○長万部町まちづくり推進会議構成員である障がい当事者団体、高齢者等により、駅や公共施設、スーパー等の多くの町民が利用する施設やその施設へ至る道路等で移動の障壁となっている場所を確認

○まち歩き点検の視点(①歩道の幅 ②電柱や看板などの障害物の有無 ③案内表示の状況 等)

(3) 抽出された主な課題

- ①エレベーターやエスカレーターがない・使いにくい
- ②トイレが使いにくい
- ③高齢者や障がい者が抱えている移動の困難さの認識不足
- ④道路に段差や凹凸があって、移動しにくい

まち歩き点検の様子(当時)→



2. 協議会の開催

○協議会(長万部まちづくり推進会議)の目的

新幹線を核としたまちづくり、地方創生及び関連計画の推進について、官民が一体となって、検討・協議するために設置

○構成員

①長万部町 ②有識者 ③高齢者・障がい者団体 ④行政関係者 等

○これまで1回開催し、委員に対し特定事業案の説明をし意見聴取。協議会当日の意見のほか、協議会委員から2月中旬まで意見を募集する。

3. 基本構想案の作成

○協議会委員からの意見聴取が終了後、意見等を基に基本構想案(素案)を作成して、パブリックコメントを実施する。

長万部まちづくり推進会議 計画策定に係る事業の取組状況

●移動等円滑化基本構想案の策定に向けた方針

北海道新幹線駅周辺整備の整備重点地区を中心に現状課題や住民等の意向を踏まえて、住民や観光客などに不便な施設や導線とならないような整備ができるよう基本構想案を策定していく。

現在、特定事業案の説明を協議会委員(構成員)へ実施し、意見募集を実施している。特に駅前広場事業に関わる北海道(函館建設管理部)との整備方針などのすりあわせを綿密に行う必要がある。

これらを踏まえ、基本構想案(素案)を作成し、パブリックコメントを実施し、3月末の策定を目指す。

●事業実施の適切性

事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。

●地方運輸局における二次評価結果

補助金交付申請書のとおり、的確、適切に事業完了する必要がある。

移動等円滑化基本構想策定後の評価等の実施は、協議会等を活用し定期的に行うなど、地域の実情を踏まえ積極的に行うことが望ましい。